日韓共通の歴史の地を共に訪れ友好深まる！

2000 年から始まった広島ユネスコ協会と韓国ユネスコ大邱協会との交流は、今年で 25 年目を迎えました。長年にわたり、これまで交流を続けることができましたのは、両協会の先輩方の熱意と努力の賜物です。

最近、「分断の世界」という言葉を耳にします。この分断をつなぎ合わせ溝を埋めるには、私たちが行っている市民レベルの交流の果たす役割が大きいと考えます。

2017 年に「朝鮮通信使に関する記録」を世界記憶遺産に登録できたのも日本と韓国の民間団体が、お互いの歴史の違いを乗り越え努力した結果です。

さて、今年度は広島ユネスコ協会から訪問団８名が、10 月 11 日から 14 日まで大邱広域市を訪れました。

＜高霊池山洞古墳群＞

＜再現された池山洞 44 号墳＞

訪問団は 11 日に福岡国際空港を発ち、金海国際空港に到着。空港には大邱協会の皆さんが迎えに来てくださり、大邱に向かう途中、2023 年に世界遺産に登録された伽耶古墳群のある大伽耶博物館を見学しました。

3～6 世紀に繁栄した伽耶の国は、倭の国(日本)とも盛んに交流を行い、鉄の加工、須恵器やかまどによる調理法など、新しい技術を倭の国に伝えていたことが、福岡県の朝倉古墳の遺跡からも分かっています。また、鳥取県大山麓には「鈑戸(たたらど)」という地域があり、ここには朝鮮半島からやってきた渡来人が住んでいて「たたら製鉄」とも関係していたといわれています。この他にも日本文化遺産に認定された奥出雲にある「たたら製鉄の里」など、鉄に関わる遺跡が残っています。伽耶の国にも「たたら」のついた地名が複数あり、古代から日本と朝鮮半島の人々の交流が盛んに行われていたことを示す遺跡が、日韓の各地に残っています。

＜韓定食店での迎会＞

夜の歓迎会では、美味しい韓定食をいただきながら親交を深めました。１年ぶりに再会した喜びを分かち合いながら、身振り手振りを混ぜながらの会話でしたが、お互いの心は通じあっていることを感じ、とても楽しいひとときを過ごしました。

12 日は、ポスコ・コーポレーション(旧名ポスコ製鉄所)を訪問し、新しくできた映像館、歴史館や製造工場などを見学しました。ポスコ製鉄所は、１９６８年に日本の資金支援と八幡製鉄・富士製鉄・日本鋼管の技術供与によって設立されました。２０２２年にはポスコ・コーポレーションに改名され、今では鋼版だけでなく最新の技術を使った電気亜鉛めっき鋼板は自動車、家電機器や建築内装材など多種多様な製品を製造しています。

歴史館には、会社の歴史や企業文化が分かりやすく展示されていました。

＜映像館での映像＞

＜映像館：鉄をイメージした映像＞

＜歴史館:第１期着工式の模型＞

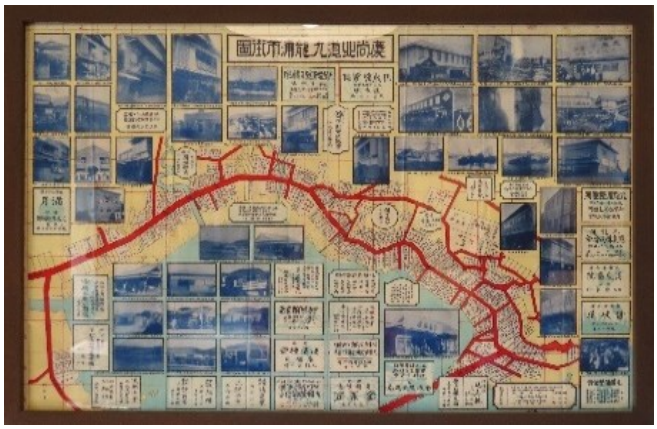
＜歴史館:ロンメルハウス＞

午後には九龍浦にある「日本家屋通り」に行きました。香川県の貧しい漁師が新たな漁場を求めて住みついたのがきっかけで、戦前には 1,100 名あまりの日本人が生活しており、神社、学校、商店街などがありました。終戦時に日本人は帰国し、残された家屋は老朽化が進んだため浦項市が修繕・整備して「九龍浦日本人家屋通り」と命名し、歴史教育の場として、また観光地として活用されています。この場所が韓国の人気ドラマ「椿の花の咲く頃」のロケ地になったこともあり、今では一大観光地となっています。私たちが訪れたときにもたくさんの若い韓国人の観光客が訪れており、浴衣姿の韓国人親子の姿を見たときには時代の変化に胸が熱くなりました。

＜神社の境内にある日本語が削られた碑＞

戦後、身の周りのものだけを持ち帰国した日本人の想い、新しく韓国人の国になり神社の石柱や碑に書かれていた日本語を削り取った韓国人の想いを共に感じあうことができました。

＜日本人家屋通り＞


＜当時の日本人町の地図＞

＜九龍浦近代歴史館：当時の実力者橋本善吉宅＞

夕方訪れたホミ岬は韓国で一番早く朝日が見える岬で、出雲に渡った韓国人夫婦の民話も残されており、その夫婦の名前のヨンオラン・セオニョテーマパークには日本式の家屋が建てられています。

＜一番早く朝日の見えるホミ岬＞

＜日本式家屋:ヨノラン・セオニョテーマパーク＞

13 日は内延山と宝鏡寺に行きました。内延山の甲川渓谷は大小 12 の滝や奇岩のある美しい渓谷です。登り口には新羅時代に建てられた宝鏡寺があります。

＜ガイドによる内延山・宝鏡寺の説明＞

＜内延山第２の滝＞

＜新羅時代に創建された宝鏡寺＞

今回は、日本と韓国が相互に関わっていた歴史をもつ地を訪れ、共に学ぶ中でお互いの違いを認め尊重しあう市民交流は、友好と平和の砦を築くために重要であることを実感でき、有意義な交流を行うことができました。私たちを温かく受け入れてくださった韓国ユネスコ大邱協会の皆様に心よりお礼を申し上げます。

（団長　政木恵美子）